

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年5月15日

【評価実施概要】

事業所番号	272501073		
法人名	社会福祉法人貴望会		
事業所名	グループホームみほの		
所在地 (電話番号)	〒039-4141 青森県上北郡横浜町三保野54番地 (電話) 0175-78-6640		
評価機関名	社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20-30 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成21年3月18日	評価確定日	平成21年5月15日

【情報提供票より】(平成21年1月7日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 14年 8月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤	15人, 非常勤 0人, 常勤換算 14人

(2) 建物概要

建物構造	木造造り		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	21,000 円	その他の経費(月額)	6,000 ~ 冬期9,000 円
敷金	有() 円 () 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 円 () 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
または1日当たり 1,200 円			

(4) 利用者の概要(1月7日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	3 名	要介護2	0 名		
要介護3	4 名	要介護4	9 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84 歳	最低	74 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	ちびき病院、横浜診療所、橋本歯科医院
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>周囲には幼稚園、ふれあいセンターなどがあり、地域の中のホームという事を感じさせる。ホーム内は暖かい光が十分に差し込み、ふんだんに使われた木のぬくもりが家庭らしさを増大させる。地元の言葉を使いながらも、利用者を尊重した声掛けをしている。利用者のADLが低下しても、出来る限り慣れ親しんだこのホームでの生活を継続できるよう理念のもとケアに取り組んでいる。地域ならではの行事等に参加したり、幼稚園や小学校の生徒とのふれあいもあり、地域交流を図っている。</p>
--

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>評価の意義や目的を職員に伝え、職員全員で自己評価に取り組んでいる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>評価後、指摘された事に関し、研修を行う等し改善に努めている。評価の意義も全職員が理解している。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>3~4ヶ月に1回の会議を年間予定に取り入れる事で日々のケアの実践に繋げ、評価への取り組みや状況等の報告について話し合いを行う事が出来ている。又、協力機関を設ける事ができ、地域関係者とのネットワーク作りにつながっている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10,11)</p> <p>グループホーム内に設置していないが、会計時併設施設にある事務所へ家族が行く為併設施設内に苦情ポストを設置している。その他電話や面会時に、意見・不満・苦情等を言いやすい雰囲気作りを心掛けている。出された事に関しては、すぐに対応する事を心掛けている。又、職員の異動がある場合は、引き継ぐ時間に余裕を持ち、利用者や家族へ十分に説明し理解してもらっている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>幼稚園や小学校の行事、ふれあいセンターでの催し物、地域の祭り等に参加し、交流をもつ機会を大切にしている。依頼があれば、介護教室の認知症の講師として地域への認知症ケアの啓発を行っている。</p>

2. 評価結果(詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型の理念を追加し、表に盛り込みわかりやすく改善し掲示している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	利用者一人一人がその人らしく生活できるように職員全員で理念を共有し、ケアの場面で態度、言葉遣い等を確認しあっている。		
2. 地域との支えあい					
3	4	隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	近隣住民や幼稚園の子供たち等と声を掛けたり、挨拶している。幼稚園や小学校の行事、ふれあいセンターでの催し物、地域ならではの行事等に参加し交流の機会を大切にしている。依頼があれば、介護教室の認知症の講師として地域へ認知症ケアの啓発を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	5	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>全職員が評価の意義を理解し、評価後指摘された事について出来る事から取り組んでいる。</p>		
5	6	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>3～4ヶ月に1回の会議を年間予定に取り入れた事によって、評価への取り組みや状況等の報告や話し合いを行う事ができた。協力機関を設ける事ができ、地域関係者とのネットワーク作りにつながっている。</p>		<p>概ね2ヶ月に1回の運営推進会議の開催は義務になっているので、今後の定期的な開催が望まれる。</p>
6	7	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>運営の実態に関して、現状としては特に課題はない為協議には至っていないが、包括センターを中心に情報交換等を行っている。</p>		
7	8	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>3ヶ月に1回勉強会を開催し、権利擁護に関する制度について学び日々のケアの実践に繋げている。</p>		
8	9	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>3ヶ月に1回勉強会を開催し、高齢者虐待に関して学び日々のケアの実践に繋げている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
9	10	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	書面を用い、わかりやすいように説明している。特に料金、重度化への対応、入院時の対応等詳しく家族に説明し同意を得ている。		
10	12	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	健康状態や暮らしぶりについては、家族の面会時や電話時に定期的に報告している。金銭面については施設全体で3ヶ月毎に領収書と共に家族へ確認している。		
11	13	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	グループホーム内だと言いづらい、書きづらい事を考え、会計時必ず併設施設内の事務所へ家族が行く為、そちらに苦情ポストを設置している。その他電話や面会時に、意見・不満・苦情等を言いやすい雰囲気作りを心掛けている。出された事に関しては、すぐに対応する事を心掛けている。		ホームや併設施設以外にも、苦情受付機関があることを説明しておくことが望まれる。
12	16	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	やむを得ず、職員の異動がある場合は、利用者や家族へ十分に説明し理解してもらっている。また、引き継ぎも余裕を持ち行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
13	17	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	3ヶ月に1回ホーム内で勉強会を開催している。外部の研修に参加した場合は、勉強会の時間をつかい報告会を行っている。		
14	18	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者や他法人の事業者とも交流を持つ機会がない。		前回の評価から改善に至っていない為、他グループホームの見学や情報交換、勉強会等を通じて気付きや悩みを共有し、相互の質の向上につなげていく事に今後、期待したい。
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	23	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	見学も自由に行い、徐々にホームに慣れるよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	24	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の先輩である利用者から色々な事を学んだり、逆に職員の話を楽しみにしている利用者もいる。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	30	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の想いを聞き取れない場合は家族へ確認し、利用者本位の視点を大切にしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	33	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族、職員からの情報で計画を作成しているが、課題やケア方法が職員の視点から見た内容となっている事もある。		利用者の主張や訴えには気付いているが、介護計画作成には至っていない為、今後気づきをもとに利用者の視点にたった介護計画の作成が望まれる。
19	34	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回カンファレンスを開催し、内容の見直しを行っている。状態変化時はその都度変更している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	36	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者・家族の状況に応じて、外泊や外出、通院等の送迎の対応をしている。体調管理や医療面との連携も図られている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	40	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者・家族の希望により、かかりつけ医の受診を継続している。送迎の対応はしているが、遠方の病院の場合は家族へ対応の依頼をし、協力を得ている。		
22	44	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度になった場合でも可能な限り、住み慣れたホームで生活出来るよう支援している。また、家族にも説明し同意を得ている。状態に変化があった場合は、今後の方針について利用者や家族と話し合っている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	47	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員の入社時、プライバシーに関して説明を行い同意書をとっている。記録物はキャビネットにて保管している。		
24	49	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースに合わせて、1日を過ごせるよう支援している。本人の希望も確認しながら対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>併設施設で調理された食事を利用者と職員と一緒に食卓を囲み食べている。盛りつけや片づけは役割分担をし利用者と一緒にしている。また、月に1度利用者から希望をきき、行事に合わせて利用者と一緒にホーム内で調理する事もあり、利用者と共に食事を楽しむ対応をしている。</p>		
26	54	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>利用者の意向を確認し、午前浴・午後浴と希望があった際は、夜間も対応できる体制を整えている。入浴を拒否する方については、本人のペースにあわせ部分浴(足浴)等で対応している。</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>利用者の能力・残存機能にあった役割を見つけ出し、日々のケアにつながっている。</p>		
28	58	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>地域の行事には積極的に出かけ、地域住民との交流を図っている。利用者も楽しみにしていて、気分転換の良い機会となり継続している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
29	62	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3ヶ月に1回勉強会を開催し、身体拘束に関して学び日々のケアの実践に繋げている。		
30	63	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	近隣住民とのネットワークが出来ている為、日中の施錠は行っていない。夜間は安全対策の為に施錠している。		
31	68	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	日中帯、夜間帯を想定し年に2回避難訓練を実施している。また、災害時の物資も準備している。		地域との連絡体制は整っているが、誰が見てもわかるような連絡図がない為、今後は連絡図を作成し活かしていくことが望まれる。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日食事量や水分摂取量をチェック表に記入し、職員が情報を共有できるようにしている。		
33	75	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	法人の感染症対策マニュアルをホーム用に作成し直し、感染予防法等を職員間で周知している。インフルエンザの予防接種は利用者・職員全員が予防接種を定期的に行っている。又、日々手洗い・うがいを徹底し予防に努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p>					
<p>(1) 居心地のよい環境づくり</p>					
34	78	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>室内の装飾は、手作りの物もあり季節感を取り入れ、居心地の良い空間の工夫をしている。又、加湿器を設置し快適な生活を送る事ができるよう配慮している。</p>		
35	80	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>自宅で使用していた物を自由に持ち込みが可能であり、居室内は利用者の好みの物や写真が飾られ自分の部屋となっている。利用者の希望する物等は家族に相談し購入し又は、持参して頂いている。</p>		

 は、重点項目。